

第三二期中間

二〇一九年四月一日～九月三〇日

# 事業報告書

株式会社クレス



# トップメッセージ

株主のみならずには日頃から格別のご支援をいただき、心よりお礼申し上げます。中間期の業績と取組みについて、ご報告いたします。

## 当期の経営方針

クレスコグループは、事業機会を着実に取込み、さらなる飛躍を果たすため、2016年4月に5ヶ年のビジョン『CRESCO Ambition 2020』をスタートし、業績の達成、重点施策の具現化、企業価値の向上を目指しています。

### CRESCO Ambition 2020

#### Lead the Digital Transformation

～『クレスコグループ』はデジタル変革をリードします。～

挑戦する企業集団 洗練された技術力と確かな品質 ひとりひとりが輝くクレスコ

当期は経営方針に『CRESCO Ambition 2020』に沿った経営「サービス品質の強化による質的成長」「リソースおよび技術戦略の強化による量的成長」「M&Aによる成長スピードの加速」を掲げ、11項目の対処すべき課題に取組み、事業を推進しています。

#### 当期の課題

- 鉄板品質の提供
- 生産性の追求
- リソース戦略の強化
- 人材の採用と育成
- 新技術の研究・開発
- グループ連携の強化
- 営業体制およびお客様とのリレーションシップの強化
- 新規ビジネスの組成
- コーポレート・ガバナンスの推進
- 経営管理と働き方改革の推進
- ダイバーシティへの取組み

## 当中間期の経営環境

米中経済摩擦や日韓関係、中東情勢等の動向が影響し、景気の足踏み感が増すなど、懸念事項はありましたが、2020年開催の東京オリンピックに関連するインフラ整備やインバウンド需要の拡大に加え、底堅い内需が後押しし、経営環境は堅調に推移しています。また、企業の競争力と成長力を強化するための「第4次産業革命」や「働き方改革」「労働力不足」に対する取組みは、「デジタル変革（デジタルトランスフォーメーション: Digital Transformation: DX）」の潮流を背景に、ソフトウェア開発、システム開発のさらなる需要を喚起しています。

クレスコグループは、アプリケーション開発技術、IT基盤システム構築技術、組込み技術のコア技術に、人工知能(AI)、ロボティクス、IoT(Internet of Things:モノのインターネット)等の先端技術を加えた幅広い事業領域を持ち、優位性を発揮できる機会となっています。反面、IT技術者不足は、業績拡大のボトルネックになっています。

## 当中間期の取組み

当中間期は、品質管理体制およびプロジェクト監査の強化や、市場の変化に即した顧客ポートフォリオおよび事業体制の見直しを図るとともに、新規顧客の開拓、先端技術を取込んだ新規事業やサービスの開発に注力しました。また、開発体制の拡充(ニアショア、オフショア)および営業方針の見直しを通じて、リソースに応じた適正な受注量の確保と顧客満足度のさらなる向上に努めました。

当社では、「健康経営」にも取組んでいます。創業理念「クレスコ憲章」で、「クレスコは人間中心、実力本位の会社である」と掲げています。企業活動の中心である社員が、心身ともに健康で、自己の能力・実力を最大限に発揮できる職場づくりを進めています。

その他の取組み実績は、本書の「Topics」でご紹介しています。また、エバンジェリスト活動の一環として、技術研究の成果発表や各種サービス・ソリューションのプロモーション活動を推進しています。活動内容は、当社ホームページのニュースや「エンジニアブログ」でご紹介していますので、ご覧ください。

※エンジニアブログ: <https://www.cresco.co.jp/blog/>



代表取締役 会長  
岩崎 俊雄

## 決算のポイント

- ◆前年同期比、売上高12.8%増、営業利益22.8%増、経常利益10.2%増、純利益5.8%増の増収増益。
- ◆ソフトウェア開発事業：営業および開発体制（オフショア含む）の強化、グループ連携を徹底。プロジェクトマネジメントと品質管理の強化に注力し、収益性が改善。前年度に実施した2件のM&Aによる連結効果はプラス材料。「金融」は全体では回復基調だが顧客毎の濃淡が大きく微増。「公共サービス」は既存大口顧客のIT投資が増加。「流通・その他」は子会社3社における受注が拡大。
- ◆組込み型ソフトウェア開発事業：主要顧客からの継続的な増員要請や基本契約見直し（包括契約締結）の他、生産性改善の取組み、ニアショアを含む開発体制の強化が奏功。「通信システム」はスマートフォン関連が増増。「カーエレクトロニクス」は主力のインフォテイクメント系が順調。「情報家電等・その他」はデジタル情報家電が順調。

## 当期の見通し

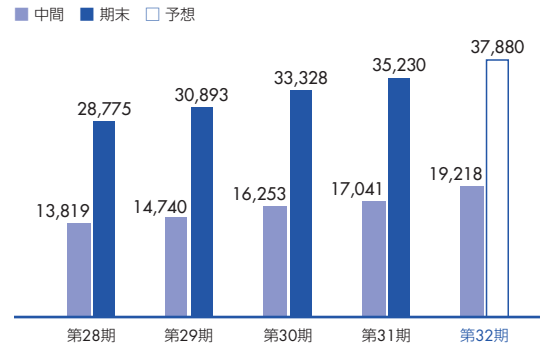
2019年9月の日銀短観の景況感が大企業製造業を中心に悪化するなど、内外の先行き不透明感が増したものの、事業環境自体は「攻めのIT経営」を主眼としたデジタル変革や2020年開催の東京オリンピック、インバウンドへの対応などが下支えとなり、概ね良好に推移すると予測しています。IT投資は、企業規模や業種、業態によって濃淡があるものの、クラウドや人工知能等の技術を利用した製品やサービスの導入を通じて、事業の変革を図り、価値創出や競争優位を確立するトレンドが継続し、引合いは増加する見込みです。一方、需要の拡大に伴い、人材の不足感は依然否めず、継続的な人材の獲得・育成、生産性および品質の向上、開発体制の強化は、経年の優先課題です。

クレスコグループは、他社とのアライアンス推進、オープンイノベーション・産学連携による新ビジネスの創出に注力し、事業の柱であるソフトウェア開発事業、組込み型ソフトウェア開発事業において、技術および品質面でのさらなる強化を図り、質的および量的な成長を通じて、持続可能な社会の発展に貢献します。

代表取締役 社長執行役員  
根元 浩幸

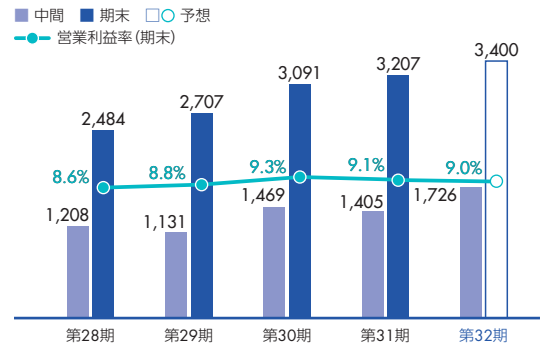
## 売上高

192億18百万円



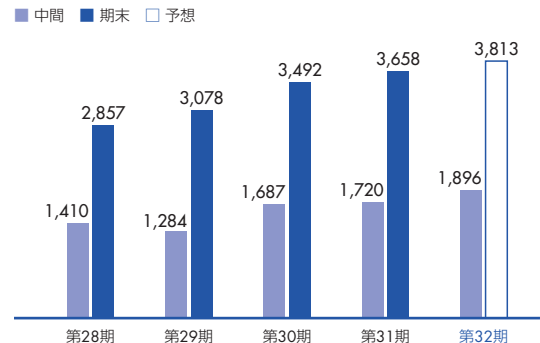
## 営業利益・営業利益率

17億26百万円



## 経常利益

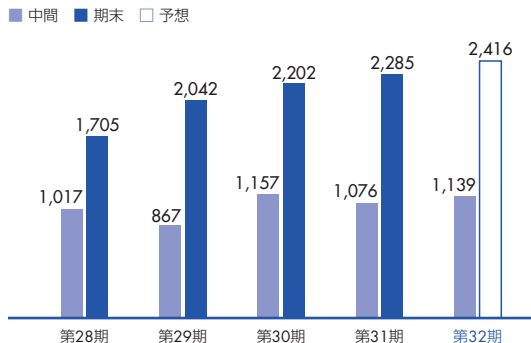
18億96百万円



# 連結業績ハイライト

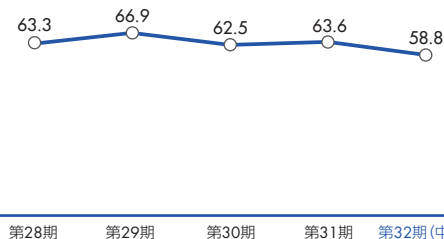
## 純利益 (親会社株主に帰属)

11億39百万円



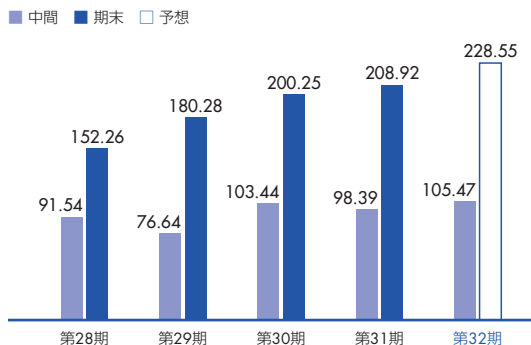
## 自己資本比率

58.8%



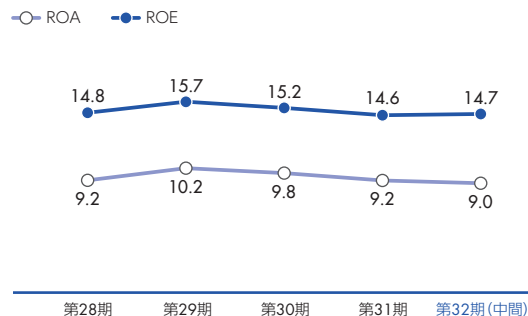
## 1株当たり純利益

105.47円



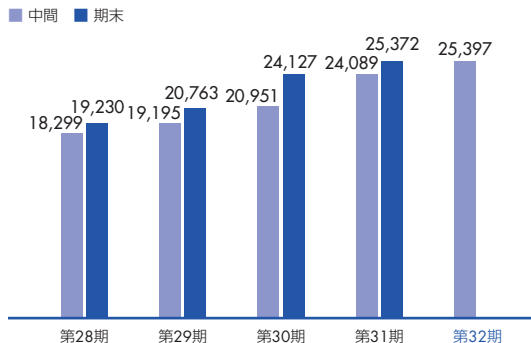
## ROA & ROE

ROA 9.0%  
ROE 14.7%



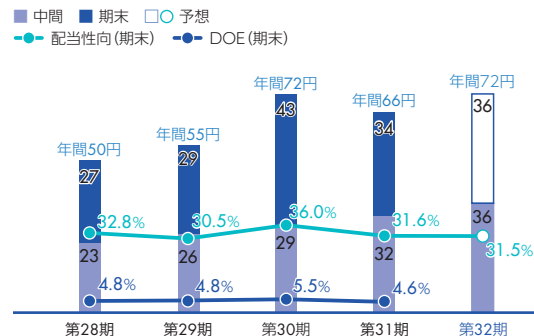
## 総資産

253億97百万円



## 1株配当金・配当性向・DOE

1株配当金 36円

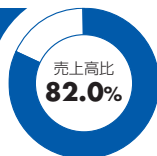


# 連結業績ハイライト

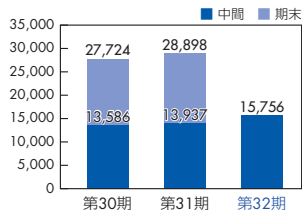
## セグメント別概況

### ソフトウェア開発

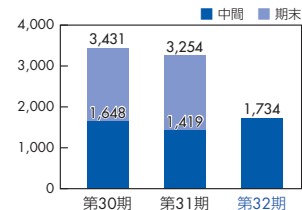
売上高 **157億56百万円**  
 営業利益 **17億34百万円**



売上高 (百万円)

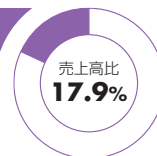


営業利益 (百万円)

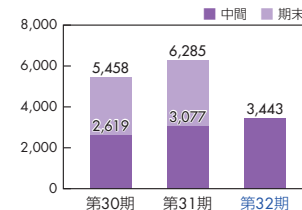


### 組み込み型ソフトウェア開発

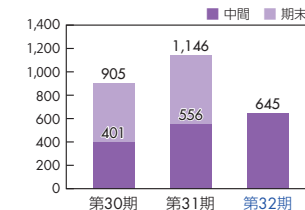
売上高 **34億43百万円**  
 営業利益 **6億45百万円**



売上高 (百万円)

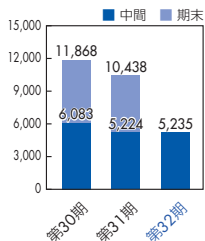


営業利益 (百万円)

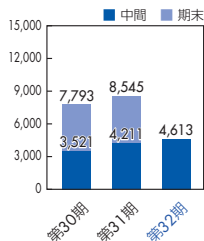


### 業種別売上高 (百万円)

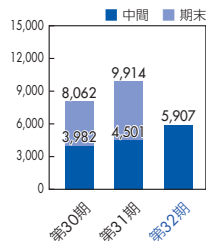
〈金融〉  
銀行、保険、証券 など



〈公共サービス〉  
旅行、人材、物流、航空、  
鉄道、医療 など

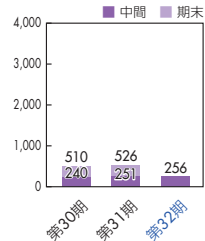


〈流通・その他〉  
小売、不動産、情報通信、  
メーカー など

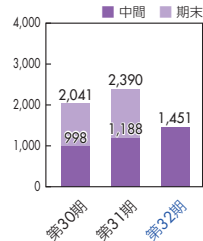


### 分野別売上高 (百万円)

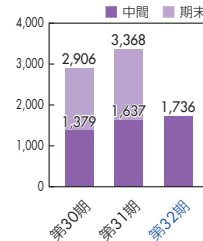
〈通信システム〉  
携帯情報端末 など



〈カーエレクトロニクス〉  
デジタルメーター、  
センターディスプレイ など

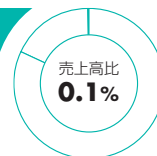


〈情報家電等・その他〉  
デジタル家電、医療機器、  
制御システム など

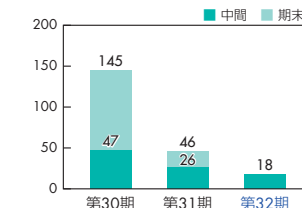


### 商品・製品販売

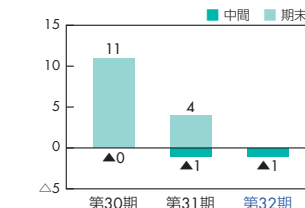
売上高 **18百万円**  
 営業利益 **▲1百万円**



売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



### 配当方針

当社は、株主のみなさまに対する利益還元を経営の重要課題と位置付けており、株主資本の充実と長期的な安定収益力を維持するとともに、業績に裏付けられた適正な利益配分を継続することを基本方針としております。配当に関しましては、原則、連結の経常利益をもとに特別損益を零(ゼロ)とした場合に算出される親会社株主に帰属する当期純利益の30%相当を目処に、継続的に実現することを目指してまいります。

# 私たちはIT業界の「匠」です。



クレスコは、今まで「匠」として

**アプリケーション開発技術、IT基盤システム構築技術、組み込み技術**

の3つの領域にわたるコア技術をビジネスの軸にしなが

ら、さまざまな仕組みづくりを手がけてまいりました。

特にITの基本部分を支えている

IT基盤システム構築技術や組み込み技術においては、

創業以前とクレスコの創業年である1988年以降とを合わせると

40年近く。他社の追随を許さない技術の蓄積があります。

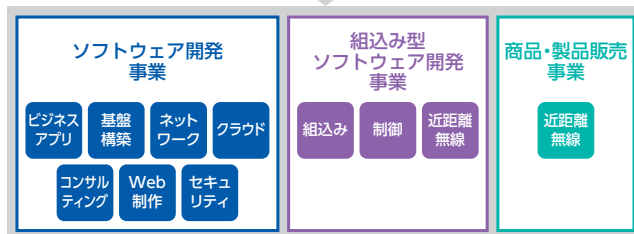
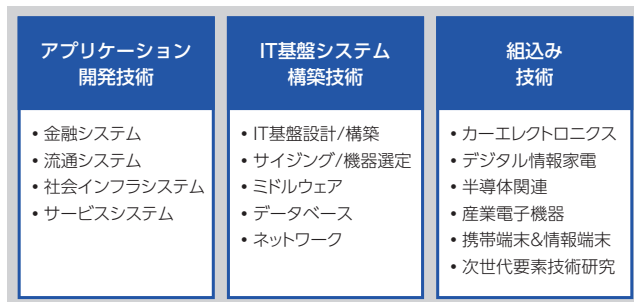
品質に対するこだわり。そして、現場尊重主義。

「匠」の精神で、お客様の信頼に応え、成長し続けてまいります。

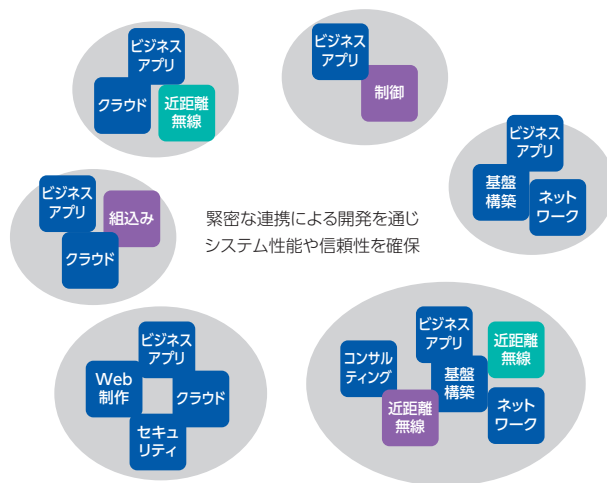
## 社名の由来

企業活動の成長が世界の人々の幸福に可能な限り最大の貢献をすること、そして、そこに働く人々が共に喜びと誇りをもち、自己の能力を最高に発揮できることが企業の使命であると考え、ラテン語で「成長する」という意味をもつ「CRESCO」を社名としております。

## クレスコの強み①経験に支えられた3つのコア技術



## クレスコの強み②コラボレーションによる事業の創造



# Topics

## 機械学習による画像解析技術の研究成果が 医療用ソフトウェアに採用

当社が医療機関と連携して研究開発した医療画像解析ソフトウェアが、株式会社ニデック様が販売する「画像ファイリングソフトウェアNAVIS (R) -EX」に採用されました。眼底疾患の病態把握と治療効果の評価には欠かすことのできない、「光干渉断層計(OCT)」という、光の干渉性を利用して、非侵襲かつ短時間で角膜、虹彩、網膜の断層画像を撮影する検査において、OCT画像を瞬時に読取り、正常眼との乖離の度合いを示す「スクリーニング機能」を実現しました。OCT画像を適切に読取り、正確な診断を付けるためには、医師の技術と経験が必要とされています。眼科領域では、世界でもまだ類例の少ない先進的な技術です。当社では2016年から、名古屋市立大学様と眼底のOCT画像の機械学習を用いた解析の共同研究を開始し、同年の電子情報通信学会の研究会などでのいくつかの研究発表を行ってきました。また他の大学や研究機関との眼底以外の眼科領域の画像解析などの共同研究も進め、実用化に向けた活動を推進しています。

## 株主総会の議決権行使の電子化と 「機関投資家向け議決権電子化プラットフォーム」への参加

当社は、2019年6月に開催の定時株主総会から、インターネットを利用した議決権行使を採用し、株式会社東京証券取引所様が運営する「機関投資家向け議決権電子化プラットフォーム」にも参加しました。

個人株主のみならず、海外に居住のみならずおよび機関投資家のみならずにとって、議決権を行使しやすい環境を整備しました。

## 譲渡制限付株式報酬制度の導入

2019年6月に開催の定時株主総会で株主のみならずにご承認いただき、当社の社外取締役および監査等委員である取締役を除く取締役を対象に、譲渡制限付株式報酬制度を導入しました。対象取締役に当社の企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与るとともに、対象取締役が株主のみならずとの一層の価値共有を進めることを目的としています。

※譲渡制限付株式報酬制度の導入に関するお知らせ  
[https://www.cresco.co.jp/news/newsr/2019/190515\\_ir2.pdf](https://www.cresco.co.jp/news/newsr/2019/190515_ir2.pdf)

## 配当方針の一部を変更

2019年9月30日現在、当社グループは子会社11社、孫会社1社および関連会社3社で構成する規模に成長しましたので、当期の中間配当から、配当の基準となる指標を「当社の経常利益」から「連結経常利益」へ変更しました。

**変更前** 原則**当社の経常利益**をもとに特別損益を零とした場合に算出される**当期純利益の40%**相当を目処に、継続的に実現することを目指しております。



**変更後** 原則**連結経常利益**をもとに特別損益を零とした場合に算出される**親会社株主に帰属する当期純利益の30%**相当を目処に、継続的に実現することを目指しております。

当社は、株主のみならずへの利益還元を経営の重要課題と位置付けています。今後も、その基本的な考え方を堅持した上で、財務健全性を維持しつつ業績に応じた適切な利益還元を行う方針です。

## 自己株式の取得および公開買付け

当社の筆頭株主の有限会社イワサキコーポレーションより、保有する当社普通株式の一部を売却する意向がある旨の連絡を受けました。一時的にまとまった数量の株式が市場に放出されることによる、株式の流動性および市場価格に与える影響を鑑みて検討した結果、当社が当該株式を自己株式として取得することは、株式の需給関係の一時的な悪化を回避することが期待できるだけでなく、当社の1株当たり当期純利益 (EPS) や自己資本当期純利益率 (ROE) 等の資本効率の向上に寄与し、株主のみなさまに対する利益還元につながると判断しました。2019年6月27日から2019年7月25日に、自己株式の取得および公開買付けを行いました。

※自己株式の取得及び自己株式の公開買付けに関するお知らせ  
[https://www.cresco.co.jp/news/newsr/2019/190626\\_ir.pdf](https://www.cresco.co.jp/news/newsr/2019/190626_ir.pdf)

## 「プラチナくるみん」認定

次世代育成支援対策推進法に基づく「子育てサポート企業」として、「プラチナくるみん」の認定を受けました。当社は、仕事と育児の両立支援に積極的に取り組んでいる企業として、2010年から4期連続で「くるみん」の認定を受けています。今回、多くの男性社員が配偶者出産休暇・育児休業を取得している点や、時間外労働の削減、年次有給休暇の高い取得率等の実績が評価され、「プラチナくるみん」の認定も受けることができました。今後も、仕事と育児の両立をより一層支援していくとともに、社員一人ひとりが安心して働くことができる環境を整備していきます。



## 子会社「アイオス」の強化

2019年10月1日付けで子会社「アイオス」は、同子会社(当社孫会社)「イーテクノ」を統合しました。統合による事業の一元化で、開発体制および顧客基盤を強化して、抜本的な効率化と事業改革のスピード化を図ります。

※アイオスのホームページ  
<https://www.ios-net.co.jp/>



## 子会社「クレスコベトナム」の設立

国内のIT技術者不足の対策と、お客様からの価格低減要請に応えるために、ベトナム社会主義共和国のハノイ市に開設していた、当社の「ベトナム駐在員事務所」を、オフショア開発のさらなる強化を実現するために、法人化しました。2019年9月17日に「CRESCO VIETNAM CO., LTD. (クレスコベトナム)」を設立し、2019年10月1日から営業を開始しています。

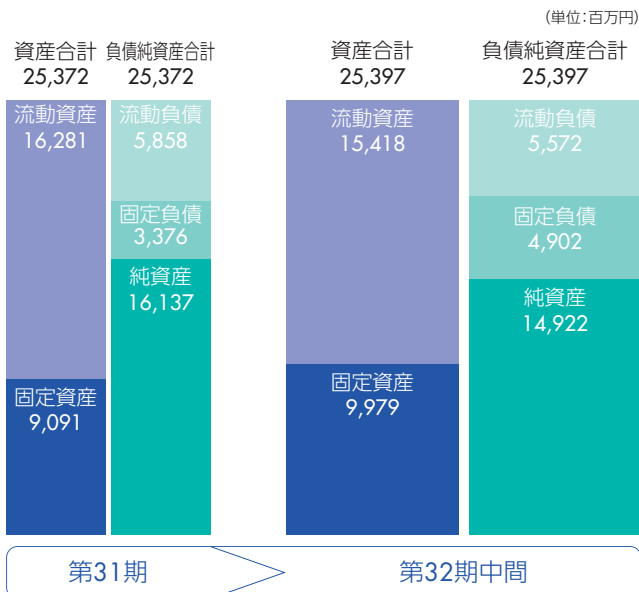
ベトナムは、勤勉な国民性を有し、ソフトウェア開発分野に長けた人材が豊富で、優秀な人材確保と高いコストメリットが見込めます。

今後は、現地における採用と人材育成を積極的に推進し、将来的には、当社企業グループにおけるオフショア開発の中核拠点として機能できるよう事業を展開します。

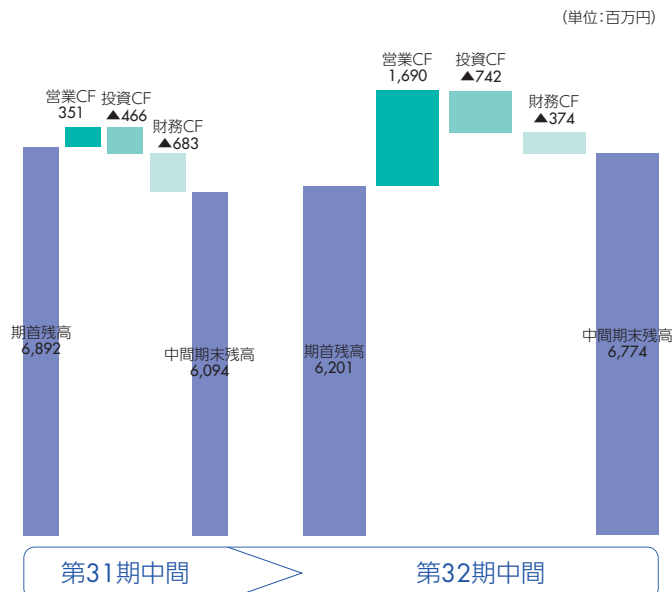




## ■ 貸借対照表の概要



## ■ キャッシュ・フロー計算書の概要



### ■ 流動資産

8億62百万円  
(前年度末比)

現金および預金が5億73百万円、仕掛品が1億39百万円、前払費用が70百万円それぞれ増加したものの、受取手形および売掛金が6億58百万円、有価証券が5億97百万円、未収入金が4億17百万円それぞれ減少したことにより、前連結会計年度末に比べて8億62百万円減少し、154億18百万円となりました。

### ■ 固定資産

8億87百万円  
(前年度末比)

投資有価証券が8億65百万円増加したことにより、前連結会計年度末に比べて8億87百万円増加し、99億79百万円となりました。

### ■ 流動負債

2億86百万円  
(前年度末比)

未払法人税等が2億50百万円、賞与引当金が46百万円それぞれ減少したことにより、前連結会計年度末に比べて2億86百万円減少し、55億72百万円となりました。

### ■ 固定負債

15億26百万円  
(前年度末比)

長期借入金が14億68百万円、退職給付に係る負債が58百万円それぞれ増加したことにより、前連結会計年度末に比べて15億26百万円増加し、49億2百万円となりました。

### ■ 純資産合計

12億14百万円  
(前年度末比)

利益剰余金が7億67百万円増加したものの、自己株式が18億26百万円増加したことおよび、その他有価証券評価差額金が1億69百万円減少したことにより、前連結会計年度末に比べて12億14百万円減少し、149億22百万円となりました。

### ■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

法人税等の支払額が7億34百万円、たな卸資産の増加額が1億50百万円あったものの、税金等調整前四半期純利益が16億50百万円、売上債権の減少額が6億38百万円、仕入債務の増加額が2億24百万円あったことにより、16億90百万円の収入(前年同期3億51百万円の収入)となりました。

### ■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資有価証券の償還による収入が7億4千万円、投資有価証券の売却による収入が6億78百万円、有価証券の売却による収入が2億99百万円あったものの、投資有価証券の取得による支出が19億51百万円、無形固定資産の取得による支出が2億65百万円、有価証券の取得による支出が1億29百万円、有形固定資産の取得による支出が46百万円あったことにより、7億42百万円の支出(前年同期4億66百万円の支出)となりました。

### ■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入れによる収入が20億円あったものの、自己株式の取得による支出が18億53百万円、配当金の支払額が3億71百万円、長期借入金の返済による支出が1億57百万円あったことにより、3億74百万円の支出(前年同期6億83百万円の支出)となりました。

### ホームページのご案内

最新のIR情報や財務データ、決算関連資料を掲載しております。ぜひ、ご利用ください。



<https://www.cresco.co.jp/>



## 取締役



代表取締役 会長  
**岩崎 俊雄** Toshio Iwasaki  
1940年11月30日生



代表取締役 社長執行役員  
**根元 浩幸** Hiroyuki Nemoto  
1960年2月12日生



取締役 専務執行役員  
事業部門、技術研究所 管掌  
兼 事業統括本部長  
**山元 高司** Takashi Yamamoto  
1960年10月11日生



取締役 常務執行役員  
財務経理本部長  
**杉山 和男** Kazuo Sugiyama  
1964年9月1日生



取締役 常務執行役員  
管理部門 管掌  
兼 経営管理本部長  
**富永 宏** Hiroshi Tominaga  
1967年1月9日生



取締役(非常勤)  
(株)クリエイティブジャパン 代表取締役社長  
**熊澤 修一** Shuuichi Kumazawa  
1956年9月30日生



社外取締役  
**福井 順一** Jyunichi Fukui  
1953年11月5日生

## 監査等委員



取締役 常勤監査等委員  
**丹羽 蔵王** Kuroo Niwa  
1955年11月13日生



社外取締役 監査等委員  
**臼井 義真** Yoshimasa Usui  
1949年2月11日生

## 執行役員



社外取締役 監査等委員  
**佐藤 治夫** Haruo Sato  
1956年11月27日生



常務執行役員  
業務推進本部長  
**菊池 淳** Atsushi Kikuchi  
1960年2月2日生



常務執行役員  
サービスコンピテンシー統括本部長  
**藤谷 栄樹** Masaki Fujiya  
1959年10月23日生



執行役員  
品質管理本部長  
**工藤 博徳** Hironori Kudou  
1965年3月21日生



執行役員  
事業統括本部副本部長  
金融ビジネスユニット担当  
**久保 和隆** Kazutaka Kubo  
1964年5月18日生



執行役員  
事業統括本部副本部長  
流通サービス・ビジネスユニット担当  
**下川 恭正** Yasumasa Shimokawa  
1967年3月27日生



執行役員  
事業統括本部副本部長  
インダストリアル・ビジネスユニット担当  
**粉川 徳幸** Noriyuki Kogawa  
1963年11月24日生



執行役員  
事業統括本部副本部長  
兼 技術研究所長  
**丸山 規行** Noriyuki Maruyama  
1961年6月19日生



執行役員  
グループ事業推進本部長  
**高石 哲** Satoshi Takaishi  
1962年5月26日生

**1** 株式会社クレスコ 本社

2 札幌事業所 4 名古屋事業所 6 福岡事業所  
3 長岡事業所 5 大阪事業所

事業内容

- ビジネスアプリ
- 基盤構築
- クラウド
- コンサルティング
- 組込み
- 近距離無線

### 子会社

**7** クレスコ・イー・ソリューション株式会社

事業内容

- ビジネスアプリ
- クラウド
- コンサルティング

**8** クレスコ ワイヤレス株式会社

事業内容

- 近距離無線
- 近距離無線

**9** 株式会社アイオス 本社

**10** 静岡営業所 APL開発センター

事業内容

- ビジネスアプリ
- 基盤構築

**11** クレスコ北陸株式会社

事業内容

- ビジネスアプリ

**12** 株式会社シースリー

事業内容

- 制御
- 組込み

**13** 株式会社クリエイティブジャパン

事業内容

- 基盤構築
- ネットワーク
- セキュリティ
- ビジネスアプリ

**14** 株式会社メクセス 本社

**15** 東京支社

事業内容

- Web制作
- ビジネスアプリ
- 基盤構築
- コンサルティング

**16** 株式会社エヌシステム

事業内容

- ビジネスアプリ
- 基盤構築
- コンサルティング

**17** 株式会社ネクサス 本社

**18** 北海道支店

事業内容

- ビジネスアプリ
- 基盤構築
- コンサルティング

**19** アルス株式会社

事業内容

- ビジネスアプリ
- コンサルティング

### 関連会社

**20** 株式会社ウェイン

事業内容

- ビジネスアプリ
- コンサルティング

**21** ビュルガーコンサルティング株式会社

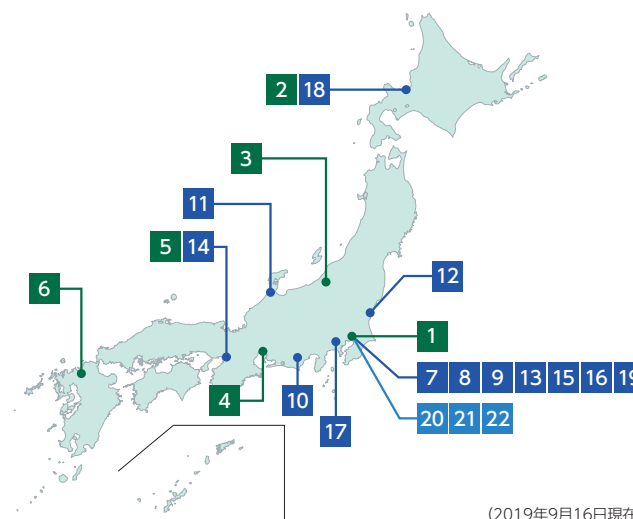
事業内容

- コンサルティング

**22** 株式会社イー・アイ・エム スタッフ

事業内容

- ビジネスアプリ
- 基盤構築



(2019年9月16日現在)

## 株式の状況

(2019年9月30日現在)

発行可能株式総数	34,000,000株
発行済株式の総数	10,342,346株
	(自己株式1,657,654株を除く)
株主数	2,636名

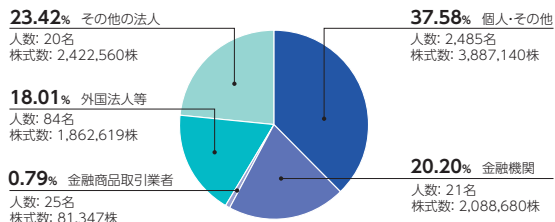
## 大株主

(2019年9月30日現在)

株主名	持株数(百株)	議決権比率(%)
有限会社イワサキコーポレーション	22,396	21.71
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	10,429	10.11
浦崎 雅博	6,277	6.08
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/ JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS	5,680	5.50
NORTHERN TRUST CO.(AVFC)RE HCR00	4,213	4.08
クレスコ従業員持株会	3,943	3.82
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,605	3.49
佐藤 和弘	3,599	3.48
田島 裕之	3,288	3.18
岩崎 俊雄	3,045	2.95

## 所有者別株式分布状況(自社保有分を除く)

(2019年9月30日現在)



## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
配当金受領株主確定日	中間:9月30日 期末:3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 (特別口座の口座管理機関)	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 [TEL] ☎ 0120-232-711 (通話料無料) [送付先] 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	日本経済新聞に公告いたします。

### (ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



## 会社概要


商号	株式会社クレスコ
設立	1988年4月
資本金	25億1,487万5,803円
従業員数	連結:2,180名(男性:1,713名 女性:467名) 単体:1,220名(男性: 954名 女性:266名)
所在地	<p>■ 本社 〒108-6026 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟 25階～27階 TEL : 03-5769-8011 FAX : 03-5769-8019</p> <p>■ 札幌事業所 〒060-0003 北海道札幌市中央区北3条西3-1 札幌北三条ビル 2階、11階 TEL : 011-200-5550 FAX : 011-200-5665</p> <p>■ 長岡事業所 〒940-0071 新潟県長岡市表町1-11-1 長岡フロントビル 4階 TEL : 0258-30-0370 FAX : 0258-33-1771</p> <p>■ 名古屋事業所 〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅2-38-2 オーキッドビル 3階 TEL : 052-589-9045 FAX : 052-589-9025</p> <p>■ 大阪事業所 〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町4-2-12 東芝大阪ビル 2階 TEL : 080-7739-8918</p> <p>■ 福岡事業所 〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前1-7-22 第14岡部ビル 7階 TEL : 092-415-3540 FAX : 092-415-3541</p>
事業内容	<p>情報処理システムに関する</p> <p>■ コンサルティングおよびソリューションサービス業務</p> <p>■ 設計、開発業務</p> <p>■ 運用管理、保守業務</p> <p>■ 調査、分析、評価および技術支援業務</p>

(2019年9月30日現在)

## IRのお問合せ 広報IR推進室

Mail: ir@creSCO.co.jp  
TEL: 03-5769-8058





東京証券取引所 市場第一部  
証券コード 四六七四

